

サビエル生誕五百年



地域密着の修道会

上五島・長崎巡礼⑬

上五島の旅、日曜日は中通島の南端にある桐教会のミサに参加した。オルガンを弾いているシスターの制服は薄い水色、中国地方では見掛けたことがない。

ミサのあと「シスターは何という修道会ですか」と尋ねると「お告げのマリア修道会です。上五島にはこの桐のほかに福見、鯛ノ浦、青砂ヶ浦、仲知に

も修道院があります」と言われた。

ちなみに山口県内の女子修道会は九つ。ふと、ある神父が冗談で言った言葉を思い出した。

「神様でもわからないもの一つは、世界の女子修道会の数」。それほどたくさんあるということも言ったものだが、非カトリック教国の日本でも約百あり、男子修道会の倍

以上である。

その多くは外国で創立されたものだが、「お告げのマリア修道会」は純日本産で、長崎県に集中して三十八の修道院があり、そのうちの十一が五島列島にある。

これは創立された時の経緯と深い関係がある。

徳川幕府の鎖国政策が改められ、キリシタン禁教令は続いていたが、外国人のために横浜、長崎などの居留地に教会が建てられた。一八六五年（慶応元

「名鏡の教会」と呼ばれる中ノ浦教会



に帰った。

ところが、その翌年、長崎で赤痢が大流行し、信徒の多くも病んだ。幸い、大浦天主堂のド・ロ神父は医療の心得があり、治療に当たったが、手が足りない。その時、志願看護婦として神父を支えたのが各地に流刑されていた若い女性たちである。

その活動は次第に活動修道会と似た形となり、共同生活をし、内容も教会内だけでなく地域の弱い立場の人たち

を支援するものになった。

昭和三十一年、長崎各地の活動を一つの組織にまとめた

誕生したのが「お告げのマリア修道会」なのである。現在の修道



女は約三百五十人。全国の修道会が少子・高齢化傾向の中で閉鎖などが目立つ中、まさに地域に密着して活動しておられる。

人知れず離島で他者のために生きる力は「目に見えないものを確信し、それに希望を託す」信仰心から来ていることは間違いない。（元山口放送取締役ラジオ局長）

年）、長崎・浦上の隠れキリシタンが大浦天主堂の神父に信仰告白したことはすでに触れた。二百五十年間、司祭不在の中で信仰が守り続けられたことは奇跡であり、「信徒発見」は世界の宗教史に残る出来事として大々的にヨーロッパで報道された。

しかし、明治政府は一八六八年（明治元）、浦上の隠れキリシタンを検挙、全国の二十藩に流刑し、その数は三千三百九十四人に達した。

お告げのマリア修道会
修道院もある福見教会



お告げのマリア修道会